



令和 4 年 12 月 / 日  
午前・午後 8 時 39 分 受領

No. 1

議長	事務局長	係

令和 4 年 12 月 1 日

愛南町議会議長 原田 達也 殿

愛南町議会議員 池田 栄次

## 一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

( 答弁一括方式 ・ 答弁分割方式 )

質 問 の 要 旨	答弁を求める者
<p>1. ごみ出し困難者の家庭ごみ収集について。</p> <p>本町が、定期的に収集する家庭ごみを、所定のごみ集積場まで持ち出すことが著しく困難で、かつ近隣住民その他身近な人の協力を得ることが困難な世帯のごみ出しについて質問させていただきます。</p> <p>(1) 介護認定、居宅介護の支給決定を受けていて、ごみ出しが著しく困難な方で構成される世帯の家庭ごみ出しは、訪問介護員が生活援助のなかで行っておりますが、地元が管理する所定のごみ集積場への持ち出しは日時の制約があるために介護支援専門員が地元自治会長さん等と協議を行い、前日の持ち出しの承諾を得たり、地元の理解が得られない場合は直接ゴミ収集業者に持ち込みを行っている。訪問支援のスケジュールをごみ出しの日時に合わせて調整するなど苦慮されていると認識しています。現状をどのように認識されているか見解を伺います。</p> <p>(2) 訪問介護員は、限られた人員で所定の時間のなかで生活援助や身体援助を行っています。介護職の人員不足が懸念されているなかで、急速な高齢化によって益々、生活援助や身体援助の需要が増えることより、通常のごみ出しより、直接ゴミ収集業者へ持ち込むような手間と時間を要するごみ出し作業が加われば、介護支援専門員や訪問介護員等の努力だけでは適切な援助サービスの提供が困難になることが予想されます。本町は、山間部や海岸部の地域が多く、ごみ集積場までの距離が遠い地区</p>	町長

があり、介護認定や居宅介護支給決定では把握できない高齢者の独居等のごみ出し困難世帯があるのではないかと考えます。まずは近隣住民やその他身近な人の協力を得ることが肝要と考えますが、介護支援専門員や相談支援専門員等の協力を得ながら精査をして、ごみ出し困難者の家庭ごみを自宅玄関先などから収集することが必要と考えます。宇和島市、西予市、新居浜市等では様々な方法でごみ出し困難者の家庭ごみ収集事業を実施しています。松山市も社会実験を行っています。宇和島市は宇和島市ふれあい収集事業として、収集の際に声かけ等の安否確認とともに直営で行っています。本町でも収集事業を行うべきと考えます。見解を伺います。

## 2. 出産・子育て支援について。

町長

2022年度第2次補正予算案に盛り込まれた出産子育て応援交付金事業について伴走型相談支援、経済的支援についてどのような考えで実施される予定か見解を伺います。

## 3. 带状疱疹ワクチン接種の助成について。

町長

带状疱疹の原因となるウイルスは、日本人成人の90%以上の方の体内に潜んでおり、50歳を境に発症率は急激に上昇し、60歳代から80歳代でピークを迎えます。80歳までに約3人に1人が带状疱疹になると言われています。体の左右どちらか一方に、最初はピリピリ、チクチクと刺すような痛みがあり、夜も眠れないほど激しい場合があります。赤い斑点と小さな水ぶくれが神経に沿って現れます。神経が損傷されることで、皮膚の症状が治った後も痛みが残ることがあり、3か月以上痛みが続くものを带状疱疹後神経痛と呼び、焼けるような、締め付けるような持続性の痛みや、ズキンズキンとする痛みが特徴です。発症すると強烈な痛みで日常生活が困難になり、3～4週間ほどで皮膚症状が治まった後も、50歳以上の方の2割に、神経の損傷による痛みが続く可能性があり、生活の質の低下を招きかねません。また、带状疱疹が現れる部位によっては、顔面神経麻痺、目の障害・難聴・耳鳴り・めまい等の重い後遺症が生じることもあります。带状疱疹ワクチンは、厚生労働省に

より2016年3月に「50歳以上の者に対する带状疱疹の予防」として効能効果が追記され2016年からある水痘生ワクチンに加えて新たに2020年に使用開始となった不活化ワクチンは、生ワクチンに比べると予防効果が高く、効果が長期間持続し、がんや膠原病などで免疫が低下している人でも接種できる点が優れています。予防接種は、発症を完全に防ぐものではありませんが、重症化を防いで後遺症の予防につながるとされています。そこで質問をさせていただきます。

- (1) 带状疱疹ワクチンの効果をどのように考えられているか、見解を伺います。
- (2) 带状疱疹ワクチンの周知と接種の推進はどのようになされているか。見解を伺います。
- (3) 高齢化が進む中、シニア世代が健康で活躍されることは重要なことと考えます。また、高齢での激しい痛みは大変な負担となります。しかし、ワクチンの接種費用は生ワクチン1回8000円程度、不活化ワクチン1回22000円程度と高額なうえに、2回接種が必要なため、負担となって接種を躊躇する方がいることが予想されます。すでに助成を行っている自治体もあることから、本町においても、町民の健康をまもる観点から带状疱疹ワクチン接種の助成をすべきと考えます。見解を伺います。